第 5 期地域福祉計画策定に係るアンケート調査結果の概要について

1 アンケートの配布数・回収数

配布数 : 3,000 通 (江別地区 1,189、野幌地区 1,075、大麻地区 736)

回答期間 : 7/12 (金) ~ 8/2 (金)

回収数 (回収率) : 1,254 通 (41.8%)

(郵送回収 968 (32.3%)、Web 回収 286 (9.5%))

2 調査結果の概要

(1) 社会的支援が必要な人の状況

- ・「現在の収入で生活することは困難」 = 「生活が困窮していると想定される人」は 10.5%
- ・相談・支援制度を「利用している」は全体の 2.3%、「利用したい」は 5.2%、「利用したくない」は 3.0%
- ・「生活が困窮していると想定される人」の困りごととして、「住宅改修ができない」「食生活の乱れ」「趣味活動ができない」があげられている
- ・「外出頻度が低い人」は 17.2%、その状態が 6 か月以上続いている割合は全体の 15.3%

(2) 地域での生活について

- ・行政が中心になって取り組むべき活動として、「災害時の救援体制の整備」「失業や病気時などの経済支援」「日常生活全般から医療や介護についての相談」が上位にあげられている
- ・住民が中心になって取り組むべき活動として、「趣味活動など余暇を過ごす活動への参加」「声掛けや安否確認」「経験や知識などを活かしたボランティア活動への参加」が上位にあげられている
- ・数値の増減はあるが、前回の調査と同様の傾向がみられる

(3) 災害対策について

- ・災害時に「自力で避難できる」が 53.5%、「避難できない」11.6%、「わからない」32.5%
- ・「避難できない」「わからない」と回答した人を災害時に支援してくれる人は、「家族」「親族」が多く、次に「近所の人」(22.9%) があげられている
- ・災害時には「必要な物資の入手」「避難場所での生活」についての不安が上位
- ・災害への備えとしては「防災関連の道具の準備」の割合が高い
- ・29 歳以下の年齢で男女ともに災害への備えをしている割合が低い

(4) 成年後見制度について

- ・成年後見制度の認知度は「知っている」27.4%、「聞いたことがある」50.6%、「知らない」18.9%
- ・「江別市成年後見支援センター」の認知度は「知っている」16.8%、「聞いたことがある」31.3%
「知らない」51.3%

(5) 再犯防止について

- ・再犯防止の立ち直り支援の必要性について「必要である」「どちらかといえば必要である」を合わせて79.4%が必要と回答
- ・必要な支援内容としては「就労支援」70.8%、「住まいの確保支援」43.5%となっている

(6) 福祉行政について

- ・福祉全般に係る情報の入手方法は「市の広報誌」が71.0%、「インターネット、SNSなど」32.5%
- ・年齢別では、29歳以下では「広報誌」が低く「インターネット等」が高い
30歳代から60歳代にかけて「広報誌」「インターネット等」どちらも高い水準
70歳以上は「広報誌」が高く、「インターネット等」は大きく減少
- ・29歳以下は「情報の入手方法がない／わからない」の割合がほかの年代に比べて高い
- ・前回調査と比較して、「インターネット、SNSなど」の回答が7.8ポイント増加している
- ・「まちぐるみの福祉活動に関する評価」は「わからない」が30.3%、「行われている」23.8%
- ・「地域活動を活発にするために力を入れるべきと思うこと」は「活動に関する情報提供」が52.6%
「活動費の支援」「人材の発掘」「専門的な人材（指導者）の養成」が続く結果
- ・「住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切なこと」は「福祉、医療、保健の連携による相談体制、支援体制の充実」が最も高く69.8%、「交通の利便性の向上、商店街の活性化など、地域おこしによる暮らしやすさの追求」が62.7%と続く